

# 岩手でも 操業自粛

## 開始6日で97%に

### 太平洋クロマグロ小型魚管理

太平洋クロマグロの資源回復に向け、7月からは沿岸でも第3管理期間がスタートしたが、北海道に次いで岩手県でも小型魚(30kg未満)の漁獲が相次ぎ、県は6日、定置漁業者らに対し操業自粛要請を発した。

第3管理期間が始まった7月1日からカウントした6日現在の岩手県の30kg未満の太平洋クロマグロ漁獲は66・9ト。岩手県(県全体枠は68・5ト)で、わずか6日間で枠の10kg台の小型魚が中

だけに網起こし回数を減らすのはかなり難しい。とにかくマグロを獲らないようにお願いするしかない」と話している。

岩手県は同日付で、「小型魚の全数放流」と可能な限りの「網起こし回数の削減」を漁業者に要請した。岩手県水産振興課は、「サバなどが獲れる時期に達している。岩手のほか、北海道でも道南のJF南かやべ漁協の大型定置を中心に、小型魚の突発的な漁獲が発生。第3管理期間がスタートしてからわずか4日で定置の漁獲上限に到達している。

## 南かやべ漁協 13日に国に要請へ 定置網の例外措置適用を

【函館】7月から始まった太平洋クロマグロ資源管理第3管理期間の開始早々、定置網によるクロマグロ小型魚(30kg未満)の突発的な漁獲がみられた道南のJF南かやべ漁協(鎌田光夫組合長)は、13日に水産庁を訪れ、長谷成人長官に対して、南かやべサケ定置漁業協

来年からの漁獲可能量が参加する予定。南かやべ地区を中心とした北海道の定置網によるクロマグロ小型魚の漁獲量は操業開始わずか4日間で65・8トに上り、このほかに、大型定置で組織する南かやべ定置漁業協会、小型定置で組織する南かやべサケ定置漁業協会の3者で行い、計11人が参加する予定。南かやべ地区を中心とした北海道の定置網によるクロマグロ小型魚の漁獲量は操業開始わずか4日間で65・8トに上り、このほかに、大型定置で組織する南かやべ定置漁業協会、小型定置で組織する南かやべサケ定置漁業協会の3者で行い、計11人が参加する予定。

【釧路】サンマ流し網の解禁後、2日間の操業1日の量だが、釧路は昨年(10隻分32箱)、一昨年中(7隻分40箱)の水準を大幅に上回り、市場関係者は「近年の中ではよい方」と話している。魚体アソート(釧路)は120kg台(178箱)の平均で、次いで多いのがキ

ズンを迎えているが、可能な限りクロマグロ小型魚の再放流を継続するとともに、新たに毎週火曜日を休漁日とするなどの自主的な漁獲抑制措置に取り組んでいる。南かやべの定置全体の漁獲量に占めるクロマグロの割合は過去3か年で0・3〜1・8%にすぎないが、クロマグロ小型魚の漁獲抑制により、イカやブリなどの水揚げにも大きな影響をもたらしているのが実態。

このままでは、定置漁業経営はもとより、組合立を要請する予定。このため、今回の要請では、TAC管理における罰則規定の見直しなど柔軟な対応を求めるとともに、第3管理期間の配分枠の見直しや、日本定置協会が提案している他

## サンマ流し網初水 出足は昨年

釧路 根室・花咲